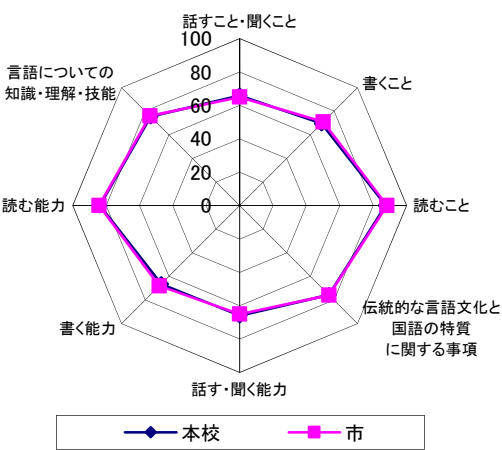


宇都宮市立城山中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	65.9	65.0	62.9
	書くこと	69.6	70.9	71.3
	読むこと	87.6	88.4	87.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.7	75.8	75.3
観点別	話す・聞く能力	65.9	65.0	62.9
	書く能力	66.4	68.0	68.0
	読む能力	83.8	84.2	82.8
	言語についての知識・理解・技能	75.4	75.9	75.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

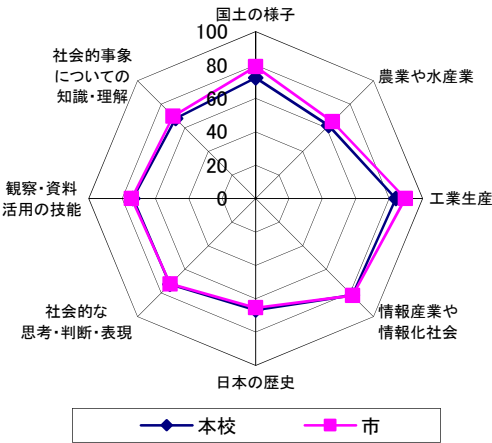
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○市の平均正答率よりもやや高い。話し手の意図を考えながら、話合いの内容を聞くことができる。 ●司会者の役割を理解して計画的な話合いにするための方法を答える問題での平均正答率は約28%で、市の平均正答率より約5ポイント低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・話合い活動を行う際には、そのテーマや意図を意識させる。また、国語の学習以外においても、少人数やグループで話し合う機会を設け、司会者や発表者などの役を多くの児童に経験させていく。
書くこと	○指定された長さで文章を書いたり、2段落構成で書いたりする問題での平均正答率は、どちらも市の平均より5ポイント以上高い。 ●資料の内容を読み取って、文章に書き表す内容が正しいかを考える問題での平均正答率が、市の平均を約5ポイント下回った。	・自分の考えを分かりやすく相手に伝えることができるよう、資料を引用して文章を書く場面では、伝えたいことや資料の要旨が捉えて書くことができるよう指導していく。また、文字数や段落数などの制限を設けるなど、書く活動を工夫していく。
読むこと	○物語文の読解に関わる問題での平均正答率は市の平均を上回っている。問題別に見ても正答率が高い。 ●説明文の読解に関わる問題では、全ての問題において、市の平均正答率を下回っている。	・読み取りを行う際には、その根拠となる叙述に線を引かせるなどして、叙述の前後の関係を整理し、細かい読み取りができるようにする。特に説明文では、言葉の意味が分からないため、正しい読み取りにつながらないこともあるので、語彙を増やし、読解力を高めていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○国語辞典の使い方を答える問題における平均正答率は、市の平均を上回っている。また、第5学年で学習する漢字の書き取りの正答率は、市の平均と比べて全体的によくできている。 ●主述に関わる文の構成を問う設問では、市の平均正答率を約5ポイント下回っている。また、特定の漢字の書き取りでの誤答が多く見られた。	・朝の学習や自主学習等で、当該学年以外の漢字を練習させていくとともに、日常から漢字を使って文章を書く意識付けを図る。漢字検定やまとめテストなどを繰り返す行うことで、正しく漢字が書けるようにしていく。また、主述関係、敬語、慣用句など、国語の力を高める指導の工夫をしたり、機会を作っていきたい。

宇都宮市立城山中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	72.3	79.1	74.9
	農業や水産業	62.0	65.1	63.7
	工業生産	84.0	89.7	86.2
	情報産業や情報化社会	81.9	82.2	73.1
	日本の歴史	66.8	65.4	65.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	72.5	72.2	69.0
	観察・資料活用の技能	73.5	74.3	69.2
	社会的事象についての知識・理解	67.8	69.9	69.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

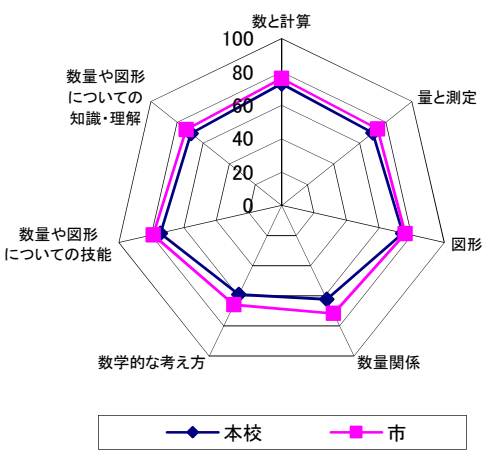
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○自然災害がおきた際の自助の大切さについて記述して答える問題での平均正答率は市とほぼ同じである。 ●全体として平均正答率が市よりも低くなっている。特に日本の国土についての知識を問う問題の正答率が市の平均より10%以上下回っていた。	・授業のはじまりや家庭学習の時間を使って、プリントなどで復習していき、習熟を図っていく。また、新聞記事やテレビのニュースなどを紹介し、日本や周辺の国々にも関心を持たせていく。
農業や水産業	○日本の米作りの問題点について複数の資料を読み取り記述する問題は、市の平均をかなり上回っていた。 ●米作りについての作業工程と作業をする季節を問う問題は、市の平均をかなり下回っている。知識が定着していないことが分かる。	・授業のはじまりや家庭学習の時間を使って、プリントなどで復習していき、習熟を図っていく。 ・グラフや資料を見て、そこから分かることや考えられることなどをノートに記述させ話し合う活動を行ったり、授業で理解したことを短い字数でまとめさせたりするなど、言語活動の充実を引き続き行っていく。
工業生産	○工業製品を工業の種類別に分類・整理する問題は、おおむね理解できているようだが市の平均正答率を下回っている。 ●消費者の多様な需要に答え、優れた製品を生産するための工夫や努力について考える問題では、市の平均正答率を大きく下回っている。	・工業生産については、他項目より正答率が低かった。基本的な語句についても意図的に学習を振り返る活動を設定し、習熟を図る。また、資料の読み取りの練習などを授業中に意図的に設定していく。
情報産業や情報化社会	○医療現場での情報ネットワークの活用による利便性について資料を読み取り考える問題では、市の平均をやや上回った。 ●メディアの種類について問う問題は、平均正答率が市よりやや低かったが、情報産業についての学習理解はおおむね良い状況だった。	・各情報メディアの特色について復習したり、メディアの情報を利用する際の注意点を確認したりしながら、情報産業や情報化社会の中で生活している自分の問題として捉えられるようにする。
日本の歴史	○縄文時代から平安時代に関する問題では、市の平均とおおむね同程度の正答率であった。 ●いくつか挙げられた資料を読み取って考えたことを記述して答える問題では、平均正答率が市よりも低かった。	・写真や映像、実物などを見ながら、その時代の文化や背景を考えるよう指導する。また、単元の終わりに他の時代と比べながらまとめるなどし、理解を深めていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	73.0	76.2	72.9
	量と測定	69.9	73.6	70.6
	図形	74.5	76.0	72.1
	数量関係	62.3	71.8	66.9
観点別	数学的な考え方	59.0	65.9	58.0
	数量や図形についての技能	74.4	78.9	76.2
	数量や図形についての知識・理解	69.4	73.1	70.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

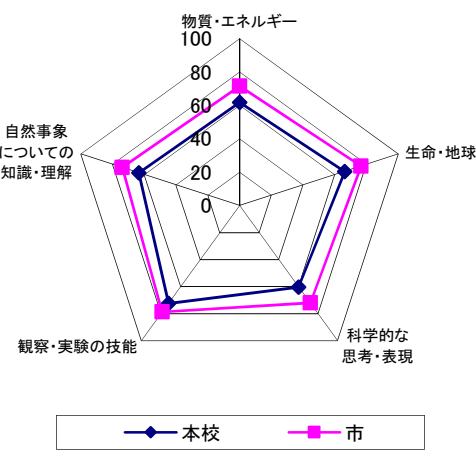
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○分数の乗法と除法の計算については市の平均とほぼ同じ正答率であった。 ●分数÷分数(約分あり)の計算が市の平均より8.2ポイント低い。	・分数÷分数の計算に慣れさせるとともに、約分を必ず行うことを習慣付けるよう、徹底的に取り組ませる。
量と測定	○単位量当たりの人数を求める問題での正答率は市の平均より8.4ポイント高かった。 ●速さをもとに道のりを求める問題での正答率は、市の平均より18ポイント低い。	・速さに関わる問題では、計算の仕方を確認して練習問題に取り組ませていく。特に、道のり、速さ、時間を求めるときにどのような計算式を用いるのか、速さ(時速、分速、秒速)と時間(時間、分間、秒間)の関係について考えさせていきたい。
図形	○三辺の長さを計って合同な三角形を作図する問題での正答率は100%であった。 ●線対称な図形について、対称の軸が何本あるか求める設問では平均正答率が市の平均より5.9ポイント低い。	・対称の軸を実際にかかせる活動を取り入れる。また、点対称についても同様に対称の中心を求める活動を実際に行わせる。
数量関係	●市の正答率より9.5ポイント低く、市の平均を大きく下回っている。4問全てで平均正答率を下回っていた。	・割合についての理解を深める活動を授業の中で取り入れるようにする。割合については基にする量と比べられる量、割合の関係をとらえさせることにより、正しく解答を求められるようにする。

宇都宮市立城山中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	61.8	71.6	67.4
	生命・地球	66.3	76.6	75.5
観点別	科学的な思考・表現	60.3	72.1	68.8
	観察・実験の技能	72.5	78.7	76.3
	自然事象についての知識・理解	63.5	73.9	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○メスシリンダー水を正しく量りとる設問では平均正答率が市の平均を11.7ポイント上回っている。 ●市の平均正答率を約10ポイント下回っている。水溶液を熱すると固体が残った時、どの水溶液であるか判断する設問では平均正答率が市の平均を15.8ポイント下回っている。	・気体が溶けている水溶液と固体が溶けている水溶液の違いを取り上げ、見つけ方について実際に実験することにより捉えさせる。
生命・地球	○人の受精卵と生まれる子供のおよその大きさについての設問では、正答率が市の平均とほぼ同じであった。 ●市の平均正答率を10ポイント以上下回っている。胎盤についての理解を問うている設問では市の平均を6.3ポイント下回っている。	・模型を見せるなどし子宮や胎盤について実感を伴った理解を図りたい。